

take the **first** step

持続可能な社会を目指して

探究



への一歩を踏み出そう！

令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
オリエンテーション合宿 in 国立中央青少年交流の家



- 趣旨** 地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一歩を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。
- 主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家
- 期日** 令和4年7月16日(土)・17日(日)・18日(月・祝) 0泊3日
(希望者は国立中央青少年交流の家に宿泊することもできます。)
- 会場** 国立中央青少年交流の家及び御殿場市周辺
- 対象および募集人数** 日本在住の高校生 30名程度
- オリエンテーション合宿 講義等日程**

【国立中央青少年交流の家 0泊3日(22単位時間)】			
	7月16日	7月17日	7月18日
8:30~8:50	受付		
8:50~9:00	開講式		
9:00~9:50	ガイダンス	講義・演習② 「課題解決の基礎」	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
10:00~10:50	講話 「地域づくりの実践」		
11:00~11:50	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00~12:50	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	昼食・休憩
13:00~13:50			講義・演習④ 「行動計画の基礎」
14:00~14:50			
15:00~15:50	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習③ 「地域課題の探究」	発表②
16:00~16:50			実践活動のためのガイダンス
17:00~17:50		発表①	閉講式

※青→導入(4科目7単位時間) 緑→探究のプロセス(4科目8単位時間) 赤→地域課題の取組(3科目7単位時間)

※1単位時間=50分

【7月16日（土）】

◆ガイダンス〔開講式・アイスブレイク含む〕（9:00～9:50 1単位時間）

⇒全国高校生体験活動顕彰制度の説明を受けるとともに、オリエンテーション合宿のスケジュールを確認する。

◆講話「地域づくりの実践」（10:00～10:50 1単位時間）

⇒昨年度オリエンテーション合宿に参加した高校生の取り組みを聴くことにより、地域づくりを実践していくための意欲を高める。

◆フィールドワーク①「地域の魅力を発見」（12:00～14:50 3単位時間）

⇒地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。

◆講義・演習①「地域理解」（15:00～16:50 2単位時間）

⇒グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深める。

【7月17日（日）】

◆講義・演習②「課題解決の基礎」（9:00～10:50 2単位時間）

⇒フィールドワーク①において参加者一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイディアによる仮説（解決策）を立て、グループ全員で共有する。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討する。

◆フィールドワーク②「地域課題の探究」（12:00～13:50 2単位時間）

⇒講義・演習②で立てたグループ内一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動（解決策）を探ったりするための取組を行う。

◆講義・演習③「地域課題の探究」（14:00～16:50 3単位時間）

⇒フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索し、発表①（グループ発表）の準備を行う。

◆発表①〔グループ発表〕（17:00～17:50 1単位時間）

⇒講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行う。

【7月18日（月・祝）】

◆講義・演習④「行動計画の基礎」（9:00～13:50 4単位時間 ※途中昼食休憩含む）

⇒オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成するとともに、発表②（個人発表）の準備を行う。

◆発表②〔個人発表〕（14:00～15:50 2単位時間）

⇒個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有する。

◆実践活動のためのガイダンス（16:00～16:50 1単位時間）

⇒実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解する。

7. フィールドワーク コース概要

A 御殿場市コース① 【講師：阿山 恭弘 氏（株式会社時之栖 常務取締役）】

富士山のふもとにある御殿場市は、観光名所も多い。そのような御殿場市の魅力を発信し、多くの人が足を運んでくれるように、ホテルや旅館をはじめとした各施設は、様々な努力をしている。フィールドワークを通して、御殿場市の魅力発信についての課題や取組を探究する。

B 御殿場市コース② 【講師：荒井 仁 氏（有限会社荒井友吉商店）】

明治時代以降、静岡県は日本一の茶処として、日本の茶業をリードしてきた。御殿場市でも、冷涼な気候を生かし、茶業が盛んに行われ、お茶は地域の人々の生活にも深く関わってきた。近年、国際化や人口増加に伴い、世界のお茶消費量はますます増加している。しかし一方で、茶業の担い手不足や消費トレンドの変化への対応など課題も多い。フィールドワークを通して、御殿場市が抱えている魅力と課題を発見し、課題解決を探究する。

C 御殿場市・小山町コース 【講師：岡田 美幸 氏（株式会社ノースゲイト 副社長）】

【講師：高橋 頼太 氏（社会福祉法人 婦人の園 理事長）】

2012年の『障害者総合支援法』などの法整備、さらには2014年の『国連・障害者権利条約』の締結国加入などにより、我が国の障害福祉に係わる公費も増え、環境も整いつつある。しかしその一方で、現在も障がい者工賃は非常に低く、自立への見通しが立っていない。フィールドワークを通して、障害福祉を変えることで、現代社会が抱える課題が魅力に変わるその取組を探究する。

D 裾野市コース 【講師：宮坂 里司 氏（NPO 法人みらい建設部 事務局）】

裾野市は豊かな自然と製造業をはじめとした産業が調和した都市として発展してきた。発展に伴う就業構造の変化や技術（産業）の革新は、暮らしに豊かさや変化をもたらした。一方で、新たな課題も生まれている。近年、全国的な問題となっている放置竹林の増加もその一つである。フィールドワークを通して、地域課題の見方を変えることで、地域の新たな魅力を生み出す取組を探究する。

8. 参加費 700 円（傷害保険料など）

【宿泊者】 5,000 円（食費 6 食分・シーツ洗濯料・傷害保険料など）

9. 申込方法

【申込期間】 令和 4 年 6 月 13 日（月）～7 月 1 日（金）

（応募者多数の場合には抽選とさせていただきます。その場合の抽選結果につきましては、7 月 5 日（火）までにメールで連絡させていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。また、参加決定者には後日メールを送信いたしますので、受信をご確認ください。）

【申込方法】 右記 QR コードからお申込みください。



当事業は、「教育事業編：新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」（当施設ホームページに掲載）に則って運営いたします。必ずご一読いただき、ご理解いただいた上でお申し込みください。

10. その他

- （1）持ち物などの詳細な内容は、事業の 1 週間前までにご案内いたします。
- （2）体調不良となった場合は、ご帰宅いただくこともありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
- （3）天候や新型コロナウイルス感染拡大の状況により、活動内容が変更または延期等となる場合もございます。予めご承知おきください。

11. 問い合わせ先（ご不明な点については、下記担当までご連絡願います。）

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家

〒412-0006 静岡県御殿場市中畑 2092-5 TEL：0550-89-2020 FAX：0550-89-2025

E-mail：fujinosato-kss@niye.go.jp take the first step 担当：藤原・小津・川合

2015 年の国連サミットで、全会一致で採択された 2030 年までの国際目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指し、国立中央青少年交流の家は、率先して推進活動に取り組んでいきます。



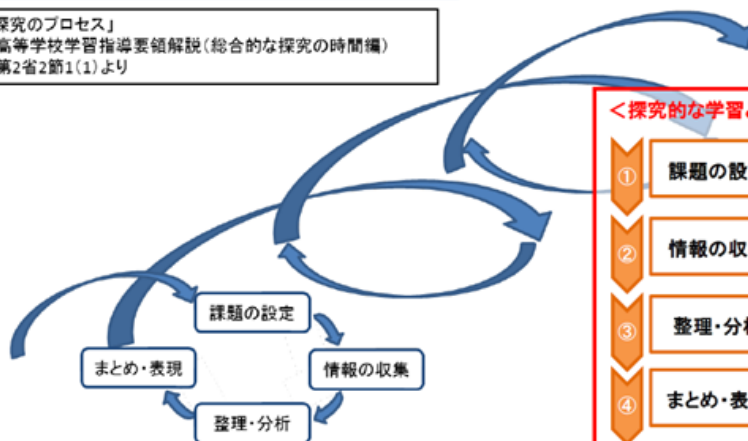


全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要

地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称が変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。

「探究」における学習の姿（探究の過程の連続）

「探究のプロセス」
高等学校学習指導要領解説（総合的な探究の時間編）
第2章第1節1（1）より



<探究的な学習とするための指導のポイント>

- ① **課題の設定** ■事前に参加者の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたりする工夫をする。
- ② **情報の収集** ■課題意識や設定した課題を基に、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行う。
- ③ **整理・分析** ■②の学習活動によって収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めていく。
- ④ **まとめ・表現** ■他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動に位置づけ、そこから新たな課題が湧きあがるようにする。

学習指導要領解説 第8章第3節1 より

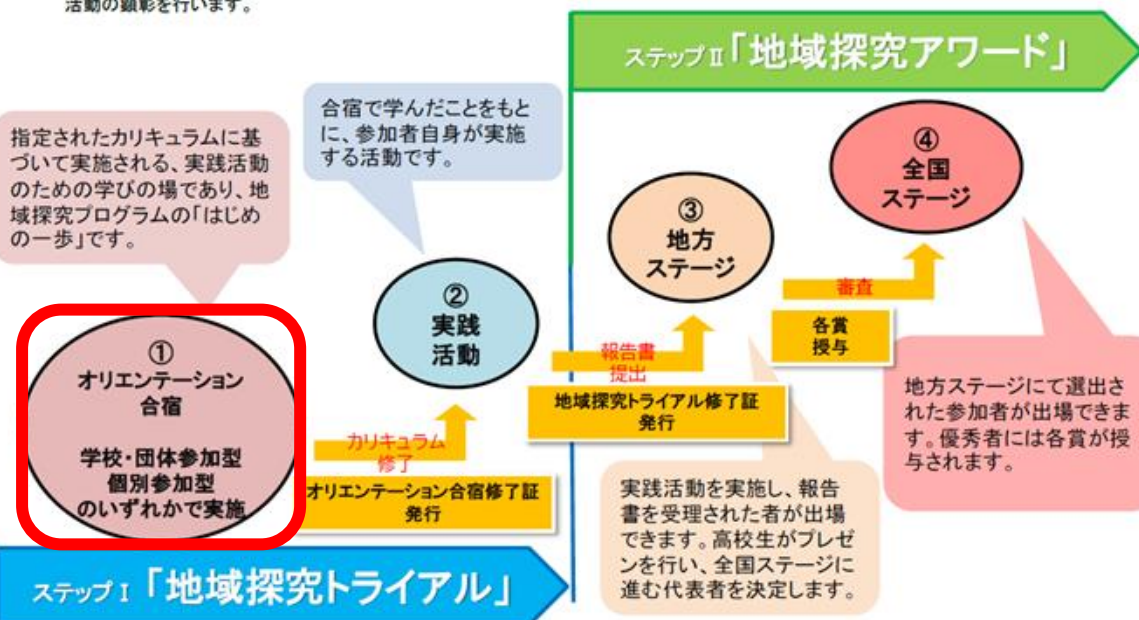
■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。

今回の事業「take the first step」は、この部分に該当します



※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進度に応じた評価ができる仕組みとしています。